

プログラム番号

06004

平成18年度「国費外国人留学生(研究留学生)の優先配置を行う特別プログラム」

【1. 申請大学の概要】

①大学名 研究科名	東北大学大学院工学研究科		
②学 長 名	総長 吉 本 高 志		
③所 在 地	〒980-8577 仙台市青葉区片平二丁目1-1		
④担 当 者 連 絡 先	所属部局・職名	工学部・工学研究科 教務課 大学院教務係長	
	担当者氏名	内 山 裕	e-mailアドレス eng-in@bureau.tohoku.ac.jp
	電話・FAX番号	(電話) +81-22-795-5820 (FAX) +81-22-795-5824	
⑤ホームペー ジURL	http://www.eng.tohoku.ac.jp/		
⑥大学院在学留学生数	819人(うち、国費留学生 258人)		

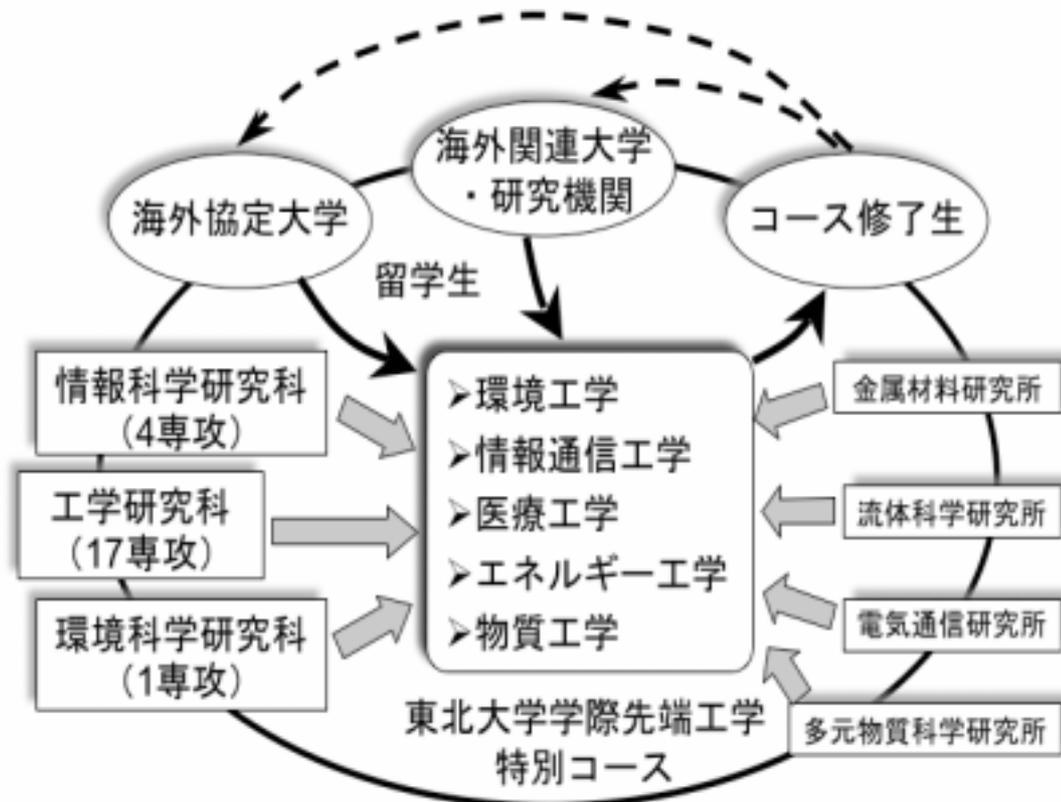
【2. プログラムの概略】

①プログラムの名称	学際先端工学特別コース
②プログラムの形態	博士課程(3年間)
③実施研究科・専攻	工学研究科 機械システムデザイン工学専攻 (所在地) 仙台市青葉区荒巻字青葉6-6
④連携大学・研究科・専攻名	工学研究科：ナノメカニクス・航空宇宙工学・量子エネルギー工学・電気通信工学・電子工学・応用物理学・応用化学・化学工学・バイオ工学・金属フロンティア・知能デバイス材料学・材料システム工学・土木工学・都市建築学・技術社会学・バイオロボティクスの各専攻 情報科学研究科：情報基礎科学・システム情報科学・人間社会情報科学・応用情報科学の各専攻 環境科学研究科：環境科学専攻 以上3研究科21専攻
⑤受入れ学生数	25人(うち研究留学生優先配置希望人数：12人) (うち日本人学生数：0人)
⑥担当教員数	合計 532人(うち専任：331人、兼担：201人、非常勤：0人)
⑦研究科長(代表者)名	所属部局・職名 工学研究科・教授
	研究科長名 内 田 龍 男

【3. プログラムの内容】

○ 開設の趣旨

大学間及び部局間協定を締結している海外の大学，既設の工学研究科留学生特別コースの修了生，並びに教員が個人的に信頼関係を有する研究者が在職する世界各国の大学，公的研究機関に推薦を依頼して，質の高い留学生を受入れ，工学系の3研究科が共同して学際的な教育と研究指導を行い，国際的技術者，研究者を養成する。このような人材育成を通じて，（1）“金”と“物”に偏らない真の国際貢献の達成，（2）各関連分野の人的ネットワークの形成，（3）大学の真の国際化および国際競争力の向上，を図る。



○ 内容及び特色

本プログラムでは，研究科や系・専攻といった従来の体制にとらわれず，近年の科学技術の急速な発展と高度化に伴って科学・工学の分野で地球規模で課題となっている環境工学，情報通信工学，医療工学，エネルギー工学，物質工学の5つのコースを設け，工学研究科(17専攻)，情報科学研究科(4専攻)，環境科学研究科(1専攻)の3研究科22専攻が横断的に参画して学際的な教育・研究指導を行う。これにより，世界各国から広範な研究分野の留学生を受け入れ，地球規模の課題に取り組める国際的技術者，研究者を養成することを目指す。英語による教育を前提とすることで世界中から質の高い学生を集めることができ，高度な教育を行うことによって将来の国際的ネットワークの中核となりうる人材を育成する。これらの教育プロセスは大学の国際化および国際競争力の向上にも繋がるものである。

○ 教育・指導体制

工学研究科17専攻，情報科学研究科4専攻，環境科学研究科1専攻所属の教員と，これらの3研究科の協力講座を構成している金属材料研究所，多元物質科学研究所，電気通信研究所および流体科学研究所ほかいくつかの学内センター等の教員が共同して教育・研究指導にあたる。授業科目としては，各コースグループ毎にコース内容に応じてそれぞれ6～10科目を設定する。学生は自らのコース以外の授業を履修することもでき，学際的教育を配慮したカリキュラムとする。研究および論文作成に関しては指導教員が個別に具体的指導を行う。これらの教育・指導体制の基本となる部分は，既に平成13年度開設の工学研究科留学生特別コースにおいて整備されている。

○ 使用言語

授業，博士論文指導，作成，審査は全て英語で行う。

○ 募集方法，募集対象国，学内選考方法

募集は公募による。協定校，受入れ実績の多い大学，研究機関等を通じて募集するとともに，本学ホームページでも募集する。対象国は世界の各国とする。選考は書類審査（入学志願書，卒業及び修了証明書，成績証明書，推薦書，健康診断書，英語能力証明書（TOEFLスコア等），学力証明書（GREスコア等））とインタビュー（インターネット等を用いて3人以上の教員で実施）に基づいて行う。

○ 修了後の進路，効果，フォローアップ体制

3研究科の教務委員会および国際交流委員会を母体とする本プログラム推進委員会を設置し，修了者の進路の調査，本プログラムの波及効果等に関する調査と解析を行うと共に，修了者に対するフォローアップ体制を構築する。